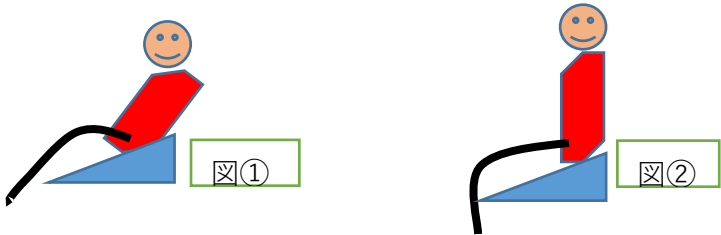


肢体不自由のある児童生徒の指導について Q&A

日頃の学校生活や学習の場面で、お悩みのことが多々あるかと思います。
支援のヒントとなるように Q & A のコーナーを作りました。
少しずつ更新したいと思っていますので、御活用ください。

Q1	升目の中に文字を書くことが難しい場合は？	A1	・升目の大きさは、児童・生徒の実態に合っているでしょうか？線つなぎや○のなぞりがどれだけでできているかによって、升目の大きさを調整します。 ・升目から字がはみ出していることを児童・生徒は意識していますか？もし意識できていないようなら、1文字の升目の枠をマーカー等で色付けし、はみ出さないように気を付けて書かせてみます。升目の枠を意識できるようにしましょう。
Q2	筆圧が弱い・正しく鉛筆を持つのが難しい場合は？	A2	・筆圧が弱い児童・生徒の練習として、サンドペーパーを紙の下に敷いて字を書かせると、圧を感じることで、力の入れ方がうまくなります。(サンドペーパーの他、柔らかめの厚紙、画用紙、滑り止めマット等も活用できます) ・鉛筆を太くしたり(*1)、鉛筆を握ったときに手の中に何か丸い物を持たせると(*2)、持ち方が良くなります。 ・鉛筆を持ち始めてすぐの頃は、手の側面(小指側)が浮いてしまうお子さんも多くいます。側面を机に付け、力を入れる練習も必要です(*3)。 *1、2、3 教材教具の紹介ページ参照(6自助具・便利グッズ①③②③) ・小さい物を3本の指先でつまめますか？指先つまみができくると、鉛筆等の3指つまみも、より上手になっていくと思います。
Q3	左手で紙を押さえることが難しい場合は？	A3	・バインダーを使用します。紙を挟んで動かないようにします。バインダーの裏側に滑り止めマットを貼ると、更に書きやすくなると思います。 ・座位や立位のときに、左手または左前腕で体重を掛けるようにして支えることができるかどうかによって、手先だけで支えられる段階が見ることができます。
< A1～3に関連して > 手指の細かい活動が難しい場合、上肢全体の運動経験が少なかったり、調整する力が未熟だったりします。 上肢全体に力を掛ける活動も取り入れられると良いと思います。			
Q4	板書を視写することが難しい場合は？	A4	・黒板を見るものの、視覚的記憶が弱いと書くときには忘れてしまうことがあります。また、どこを見ていたのか分からなくなってしまう場合もあります。黒板ではなく、机上に写させる物を置いて視写させたり、黒板に書くときには、枠や数字やアンダーライン等を使う工夫が必要です。
Q5	やりたくてもできないと言う気持ちに寄り添うには？	A5	・やりたくてもできないと悩む児童・生徒がいる場合、どう工夫すればできるようになるのか、どこまでを自分の目標にするのか等、一緒に考えていくとよいと思います。 ・どうしても機能的に無理な場合は、「あなたはこれができるね」と価値観が他に移るように支援することもあります。

Q6	車椅子に座っているときの姿勢が悪くなる場合は？	A6	・良い姿勢とはどんな姿勢なのか、児童・生徒は意識できていますか？見本を見せたり鏡を見せて、良い姿勢を確認しましょう。その上で言葉掛けをして意識させます。 ・普通の椅子に座れる場合は、車椅子から普通の椅子に座り換えた方が姿勢は保持できたり、保持するための力を高める学習になります。 ・低緊張やまひがある場合は、ケースバイケースですが、クッションやタオル等で良い姿勢が保てるように詰め物をして、安定した姿勢を保ちます。ブーメランクッション(*4)の活用も有効です。 *4 教材教具の紹介ページ参照(運動・姿勢⑩) ・良い姿勢で安定して、その感覚を学習していくことで、より良い発達が期待できます。
Q7	椅子に座った時に姿勢を正しく保持する方法は？	A7	・例えば、左半身のまひが強いと体幹が左に崩れてしまいがちです。そこで左手を机に出すだけでずいぶん正しい姿勢を保つことができます。その時に左手を置く目安となる位置に印(*5)を付けたり、軽石(*6)を置いて握ったりするなどして、自分から左手を机に出す意識付けを図ってみましょう。 *5、6 教材教具等の紹介ページ参照(6自助具・便利グッズ⑪) ・椅子に座った時に骨盤が傾いて(写真①)、姿勢が崩れてしまうことがあります。三角マット(*7)を座面に敷いて座ると、身体が前傾に向かいやすく骨盤が正しく立って良い姿勢を保持しやすくなります(写真②)。  ・三角マットを使用しても、座り方によっては、骨盤が傾いて(後傾して)しまうので(図①)下の図を参考にして、きちんと骨盤を立てて(図②)姿勢を保持できるよう支援しましょう。 *7 教材教具等の紹介ページ参照(1運動・姿勢⑫)  また、三角マットの角度によっては、かなり足に加重がかかってきついかも知れません。「朝の会の10分間だけ」など時間を決めて集中して取り組み、少しずつ伸ばしていくのがおすすめです。徐々に、姿勢への意識が育ち、足の付き方が上手になり、足で姿勢をコントロールする力がついてくると、姿勢の保持も上手になってくると思います。

Q8	よだれが出てしまうけど、どうしたら良いかな？	A8	•よだれが出ていることを本人は意識できているでしょうか？まずは、自分で気づいて拭くことができるよう支援してみましょう。鏡を見て拭く練習をしてみましょう。 •意識するのが難しいようであれば、口腔内や口周辺に感覚の低下(鈍い部分や、過敏な部分)があります。よだれが出てしまうのは、感覚の低下からなのか？口を閉じられないからなのか？舌の動きが悪く唾液を奥に送り込めないからなのか？服薬の影響により唾液が増えることもあります。身体全体の筋肉の発達や姿勢も関係しているので、原因を探りながら、ゆとりをもって以下のことに取り組んでみてはいかがでしょうか。 •顔周辺のマッサージ(*8)で普段使われていない部分の筋肉に刺激を与え、意識を向けてあげます。 *8 教材教具の紹介ページ参照(3自立活動⑤) •笛、玉を吹き上げるおもちゃ、ストローを吹くなど(*9)を行うと、口を閉じる練習になります。口の動きへ意識を高めることにもなります。向き合ってピンポン球を吹き合う(*10)などゲーム感覚で取り組めると良いです。また、アイスの棒(*11)などで歯をかみ合わせて、唇を閉じる練習も良いです。できたら、たくさん褒めてあげてください。児童・生徒の苦手意識があるデリケートな面かと思います。遊びの中で、少しずつ楽しく取り組んでみてください。 *9、10、11 教材教具の紹介ページ参照(3自立活動⑮⑯⑰)
<質問事項について> 以前実施した、小・中学校の肢体不自由児教育に携わっている先生方へのアンケートや本校の夏季研修会に参加された先生方から、指導上課題としてあがってきた具体的内容の中から、いくつかを選び、今回の質問事項となっています。 <回答について> 本校職員が日々の授業や学校生活の中で、児童生徒を支援していく手立てを参考に、また、地域の小中学校に巡回相談を実施した折に、いろいろな場面で助言してきた経験を元に回答しています。いくつかの例を挙げていますが、他にもいろいろな手立てがあるかと思います。一つの例として参考にしてください。			